

Conversation Practice with Simple LL System

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/24860

簡易LLによる会話学習

中川友吉*

0.0. LLは本来構造主義の言語学習理論に基づき反復練習を重視する言語学習の為に考案された装置であるが、近頃はコミュニケーションを目標とする学習にも使用され、その装置や学習方法においても種々工夫がなされている。

0.1. 中川(昭和53)はブース内で隣りあった2人の学生の間での対話を目標として、教材にI.C.E.中級を使用し、次のような方法で行った。

0.1. この教科書は奇数・偶数の2課で1単元を構成し、奇数課は
Part A:Text(comprehension check-up)
B:Dialog(Expression for Repitition)
C:Conversation Practice

の3部門に分れ、身近な題材についてのreadingとwritingとそれに関する簡単な日常会話を行うようになっている。

偶数課は

Practice 1: Dialog Repitition

” 2: Pronunciation Drill

” 3: Grammar Exercise

からなり、Part B: Dialogの口馴らしと、音声・文法の基礎構造のドリルをしてLL本来の学習をすることになっている。

0.2. 以上の教材を最初の1時限に教室で学習した後、その単元と同じ題材について約300語の作文を宿題として課し、次の時間にこの作文に基いた会話練習をブース内で行わせた。

0.2.1. ブース内の会話は次のような段取りで行った。

step 1. お互いに作文を交換し、相手の作文について10問を別紙に記入する。

step 2. 用意した質問を相手に尋ね、その会話を録音する。

step 3. 録音された自分の答を相手の書いた質問用紙に記入して作文と一緒に提出する。

0.2.2. 会話といっても最初のうちは極めて簡単なquestion and answerしかできないが、段階的に複雑な形にしていって自然なdialogに近づけるようにした。

1)yes-no questionは答がyes, noで終わってしまうから、wh-questionを次第に多くする。

2)質問応答に、それに関連ある事柄や意見を加える。

3)相手の質問に答えたり、意見にあいずちをうったりした後、逆に相手に質問をする。

以上の学習は最初の2~3年間、1学期の間行なったが後に1年を通じて行ない、大体10回位の会話練習を行なうことができた。

1.0. 以上の方法による学習を数年間くりかえし、学生も或程度会話に興味をもちそれなりの成果はあったと思うが、次のような問題点もあった。

* 中川 友吉 金沢大学教育学部

1.1. 所謂ハード・ウェアの点で従来のLLは

1)ブースがコンソールに直接繋がるだけで、コンソール間の連絡はない。従って対話も隣り同志でしかできない。

2)テープ・コーダーの切りかえがスイッチで行われる為、いちいちガタリ、ガタリと切りかえなければならない。

3)これは余り重要なことではないが、最初の1こまを普通教室で行なって後の1こまをLLというようにすれば1科目で教室が2必要ということになる。

1.1.2. これらの問題を解決する為に普通教室で向いあった2人組2で1班を作り、1台のテープ・コーダーを使用させた。これで向いあった2人で自然に近い状況で対話はできたが、隣の班が近いので邪魔になり、録音にも多くの雑音はいった。

この雑音を除去する為に学生の1人1人がヘッド・フォンを使用し、リスニングセンターという交換機を通じてテープ・コーダーにつなぎ、更に接続紐でこのテープ・コーダーを教師用のテープ・コーダーにつないだ。(図1参照)

1.2. 教材も従来のaudio-lingual methodに対してsituational methodと称される方法を用い、状況に応じたCommunicationを練習しようとするM. Ockenden, Modern Situational Dialoguesを使用することにした。この教科書は次のような構成になっている。

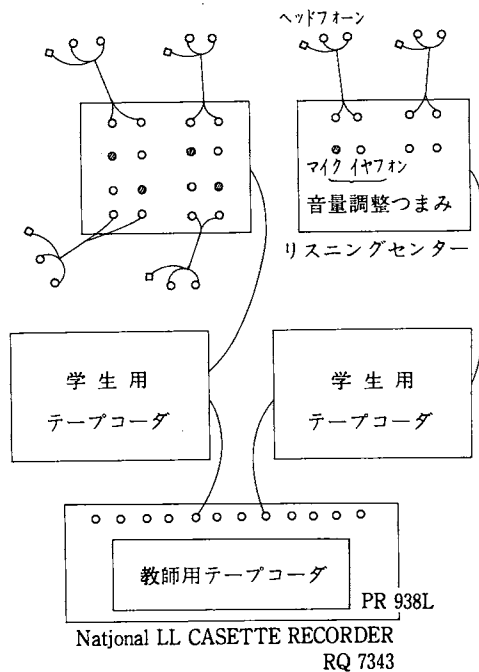
1. text 会話のテーマの背景となっている英国の風俗・習慣・生活の知識が数百語の英文にして与えてあり、その題目は次の通りである。

(○印のものは教室で学習したもの)

- ① Introductions and Opening Conversation Gambits
- ② Saying Good-Bye to a Friend
- ③ Making an Appointment
- ④ Thanks for Hospitality

付録

図表1 簡易LLの構造



- ⑤ Asking People to Repeat and Offering Lifts in a Car
- ⑥ Asking Favours
- ⑦ Apologising
- ⑧ Christmas, New Year and Easter Greetings
- ⑨ Television
- ⑩ The Weather
- ⑪ Asking the Way
- ⑫ On a Bus
- ⑬ London Underground
- ⑭ Booking Airline Tickets
- ⑮ At Lunch
- ⑯ Tea Time
- ⑰ With a Friend in a Coffee Bar
- ⑱ In a Pub
- 20 At a Hotel
- 21 Finding a Room
- 22 At a Doctor's Surgery
- 23 At a Chemist's Shop
- ⑳ Shopping
- 24 In a Post Office
- 25 At a Bank
- 26 In a Restaurant
- 27 At a Barber's Shop
- ㉑ At a Theatre
- 29 Taking a Taxi
- 30 Telephoning

2. Oral comprehension 各課の理解をチェックする為に英語で5問ずつ録音されており英語で答えることになっている。

3. Dialogues text の主題に即して3～4問交わされ対話が4通り用意され、色々な状況に応じた会話ができるようになっている。

4. Drills 例にならって5回練習できる4組の練習問題。うち1組がsubstitution drillで、残りの3組はdialoguesで練習した会話のうち有用な表現を対話形式で練習するようになっている。

1.3. 以上の教材・教具を利用して次のように学習した。

1. Review 前回で学んだ4組のdialoguesの中、易しいものと可寧な言い方をそれぞれ1ずつ拵んでその暗記を宿題として課した。教室においては

1) 先ずクラス全体で録音に従ってきく・読むの練習をする。

2) 互に向いあった1組の学生が憶えてきた対話の1を役割に従って練習し、次にも1の対話を役割をかえて練習して録音する。その際隣にいるもう1組の学生がモニター役をする。次にこの1組が同様の方法で練習録音し、前に練習した学生がモニター役をする。全部の練習が終れば録音を再生して点検する。

3)学級全体の練習を終ればその中からテープを1～2本選び、全員で録音をきいて教師が訂正したり問題点を指摘したりして検討する。

2. Text 最初にテキスト見ながら教材の録音テープを聞き、難しい表現や興味ある内容について質問や説明を行なう。

3. Oral Comprehension

1)ヘッド・フォーンを通じ各学生にテキストの録音を1回送る。その際教科書は閉じさせる。

2)録音された質問を2回送り、その答を答案用紙に記入させる。

3)答案を隣同志で交換させ、教師のテープ・コーダーを通して録音された問と答を全員できいて採点(50点満点)する。その際、文法や綴字の誤りを不問にして答えの内容が正しいかどうかによって採点する。

4)用意された成績表に成績を記入し、学期末に提出して評価の資料にする。

4. Dialogues

1)まず4組のdialoguesの録音を全員できいてその意味や口語表現の様式と使い方等について質問又は説明をする。

2)次に易しい表現と可寧な表現を一つずつ選び、抑揚に特に注意したから、最初は1人で、次に全員で1文ずつまねさせる。

3)全員でもう1度その録音をきいた後で、各人が読む練習をする。

4)向いあった数組を指名して読む練習をさせ、全員でそれを聞く。

5. Drill

1)録音を学生のテープ・コーダーに送り、それをききながら録音させる。

2)教材について留意点を指摘する。

3)学生のテープ・コーダーをLL操作にきりかえ、テープにふきこまれた録音をききながらドリルをやり、終わった後に再生して各人の学習を点検させる。

2.1. 作文 2～3課毎にその中で興味があると思われる題目を選び200語程度の作文を宿題として課した。語数を従来の300語から減らしたのは、1度に300語の英語は耳だけで聞くのに少し多すぎること、又その分だけ話す方の時間が増えると考えたからである。実施した作文の題目は次の通りである。

奇数課組	偶数課組
1. (11月9日) Life History	Party
2. (12月7日) Television	X-mas andlor New year
3. (1月11日) Trip or Transportation	
4. (1月21日) Food	
5. (2月15日) Entertainment Shopping	

2.2. 会話 会話練習は次のように行われた。

1)1人の作文をきいて残りの3人がそれについて質問一応答を行なう。1人について約15分であるから4人で60分。

2)残りの30～40分でその録音を再生して1人の作文毎に転記させ、質問と答に使用した単語と

文の数を記入して作文と一緒に提出させた。

3)翌時間までに作文と会話を点検、訂正と評価をつけて返し、学生の録音テープを1～2再生して問題点を注意した。作文の評価は内容と表現の正確さ(文法)と質的規準によったが、会話の方は使用した単語や文の数という量的規準に従った。

2.2.1. 毎回会話練習を始める前に、会話を続けるのに有用ないくつかの表現をあげた。

1)単語がすぐ見つからなかったり、誤りを訂正する時に使用する間取り uh(…) m(…) uhm

2)相手の話に対するあいずちのうち方

mhm, uhun, I see, really, tag-question等

3)相手の言ったことがききとれなくてきき返す表現、(I) beg your pardon, sorry, what(did you say)?等

4)相手の話の内容が分からない時の表現

What do you mean?

5)英語でどう云えばよいか分からない時の表現

What is the English for ___?

How do you say ___ in English?

この実際については中川(昭和52)参照

2.2.2. 会話を少しずつ複雑にする為に前回と同様にいくつかの段階に分けて目標をきめた。

1)1回目の会話練習は順番に1人1回1問ずつ、計2回質問一応答を重ねることを目標とした。質問や答がすぐ出てこない時はテープの回転を停止することを許した。

2)2回目は1人の質問一応答の回数を3以上にした。

3)3回目は同一人の間で1度に2回会話を交す練習をした。

4)4回目は相手の質問に答えた後にききかえす練習をした。この回からテープ・コーダーの回転をとめないで上手にまどりをしながら話を続ける練習をした。

5)5回目はテストで、今までの会話練習の総仕上げをした。

3.0. 会話学習の成果を点検する為に図表1 会話の使用語数表、図表2 1文の平均語数表を作成した。対象学生は教養部1年後期で、教育学部小学校課程(男子-12名、女子-28名)経済学部(男子-39名、女子-1名)で、最後の回はテストであったから全員出席と思われるが、その他は欠席・遅刻又は機械の故障等で必ずしも人数が一定しないが、大体男子2-女子1の割合である。

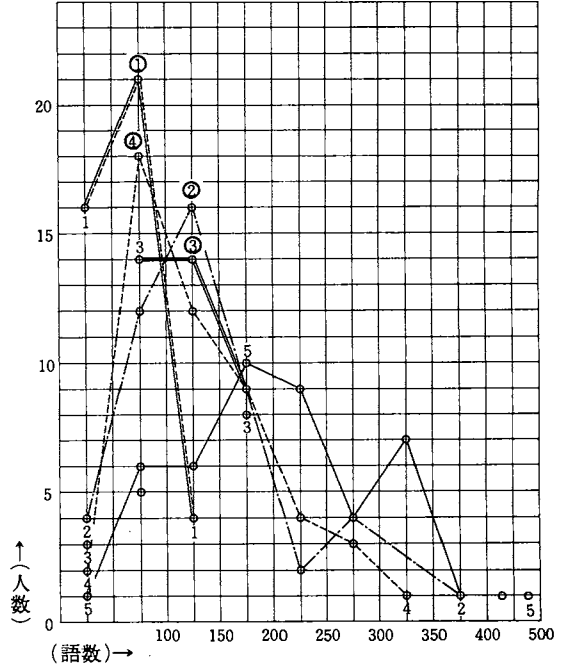
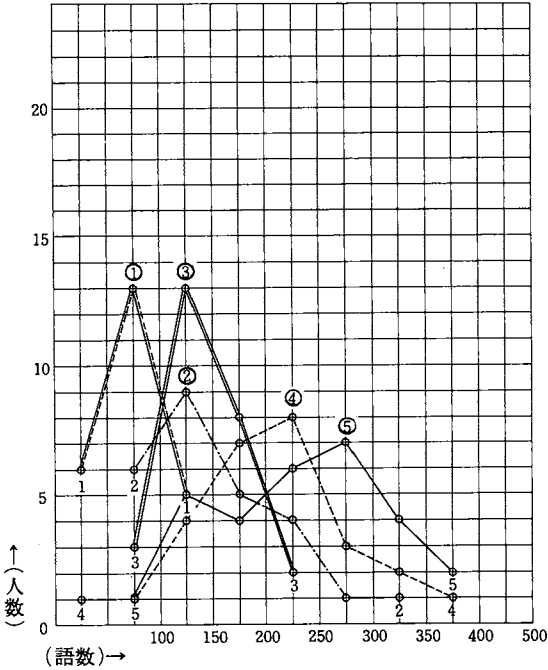
3.1. 図表2は5回の会話練習の成果を男女に分け、横軸に使用語数・縦軸に使用した人数をとり、学生の会話能力の進歩を使用語数から見ようとした。人数は男子学生が女子学生の約2倍であるから、図表の女子学生数を2倍すれば一応両者を比較することができる。各回のグラフの中、語数の1番少ないところと1番多いところ、(即ち線の両端)にその回の番号を示す数、該当学生が一番多いところ(即ち線の一番高い所)に回の番号を○に包んで記入した。

1)男女とも曲線に2の型があることに気がつく。1は1(Life History, Party)と3(Trip or Transportation)でいずれも二重の線で示されているが、左右に急勾配の山の線形を呈している。1回目は最初で不馴れ、3回目は余り興味のない題目で話はずまなかったことを示すものであろう。男子の3のグラフの昇りの部分が欠けて線の長さが短かいのは、上記の理由で資料が少なかったからである。男女いずれについても3の山の位置が右にずれているのは、回が進むに従っ

図表2

2 男子学生

1 女子学生



てそれだけ使用単語数が多い学生が多くなり、会話能力が伸びたことを示す。

2)第2の型は2(X-mas & New year, TV)、4(Food)、5(Entertainment, Shopping)でいずれも一本線で示されているが、第1の型ほど山の高さは高くないが、その分だけ右の傾斜が緩やかになり、それだけ多くの語数を使った学生の数が増えたことを示す。女子学生のグラフでは山が2、4、5と次第に低くなり、右のゆるい傾斜が次第に右へ移っているが、使用語数が順調に伸び、会話能力がそれだけ向上したと考えていいのではないか。男子学生では2と4の線の配置が逆になっているのは、Foodという題目が男子学生にとってやや苦手であったことを示すものであろうか。

3)男・女学生を比較して女子学生の方が順調に伸びているのは、女子学生が話し好き又は話し上手なのか、勉学の態度が真面目な為であろうか。

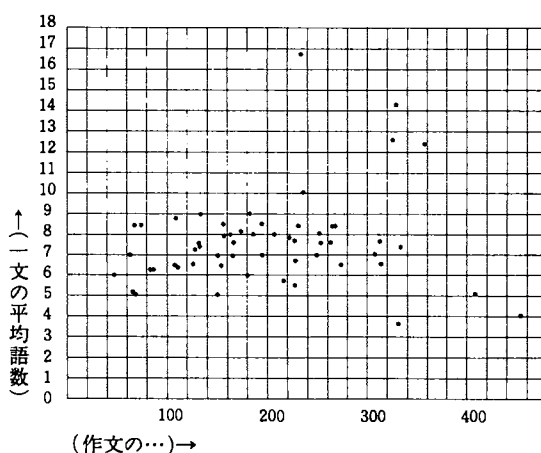
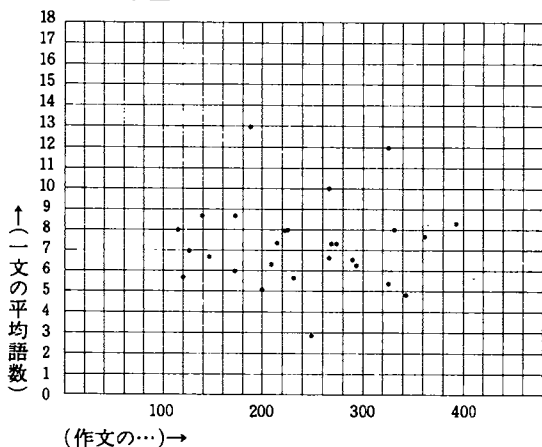
3.2. 図表3は横軸に使用語数、縦軸に1文の平均語数を取り、学生の文構成力と会話能力との関係を見ようとしたもので、最後の会話練習(Entertainment, Shopping)からそのデータをとった。

大体、1文6~9語ということで、例外的に10以上と5以下があるが、使用度数の多い所にある例外的実例から1例ずつとり(実例1、2)、その特徴を検討するとともに、会話能力向上への方向を探った。尚、銘々の会話の実例の前にその土台となった作文を参考の為に付け加えた。又意味の分りにくい誤りには(= ?)をつけ、又脱落していると思われる単語は〔 〕で加えて読者の理解をはかった。更に話手の記号に数字をつけ引用文の出所を見る便をはかった。

図表 3

2 男子学生

1 女子学生



1. 実例 1 は男子学生のEntertainmentに関するもので1文の平均語数が10以上のものである。この内訳を更に詳しく見ると、平均語数が1～5までのものが9 (29%)、5～10か11 (35.5%)、10以上が11 (35.5%) ということになる。

1)文法上の特徴 2以上の文を接続詞でつなげば1文の中に2以上の文の語数が含まれるのは自明の理である。従位接続詞で結ばれる以外のものではどこに文の区切りとするかは仲々難しい問題であるが、一の意味のまとまりと話す速度が大いに影響する。この実例の場合、割合に早い速度で話されている。

B₄ : I thought it (=so?) sometimes but I enjoy cycling itself so I must ride a bicycle to continue cycling

A₂ : When you have to ride on the bicycle ... What do you do?

B₉ : I touched (=had contact with?) the people of the land (=place?) because I must inquire the road or destination and so on.

転記においても速さを意識してかclauseの切れ目にコンマをつけていない。又くりかえしによる展開は…又はセミコロンで表すべきものであろう。

B₂ : mm I mm I must hitchhike ... I must hitchhike some day (=way?)

B₃ : It is inevitable to wear raincoat in the rains I must do so.

関係節も一の方法である。

C₂ : The land you went, the people who lived ... who live [in] the land you went to ... you went to, are all kindly people?

2)修辞上の特徴 例を沢山あげたり、話が脇に外れたりすると話が長くなる。

C₁ : You said you went, for example, Kyoto and Nara, Omae-zaki, Hida-Takayama, Noto, Ise-Shima. By the way did you have touches (=contact) with people who live there?

3)正しい単語や表現の模索

D₃ : Do [n't?] you ... do [n't?] you ... are [n't] you very tired?

B₁₁ : Oh, not I, no no, I don't belong [to] the (=any?) kind of cycling ciub or cycljng communication ... cycling commutation

B₁: I dislike the rain, mm I dislike riding in the rain very much, so if it is rain(y), I stop running—I stop cycling...

その他くりかえしは強調や相手の理解を助ける(?)為にも使用されているようである。

B₁₂: Oh, because I like cycling alone, alone.

B₃: It is inevitable to wear raincoat in the rain; I must do so.

2. 実例2は Shoppingに関する女子学生の会話で1文の平均語数が数語のものである。もつと詳しく云えば1~5語のものが96(76.2%)、5~10か24(18.8%)、10以上6(9%)で大部分の文が5語以下であり、ゆっくりとした連さで活されている。

1)文法上の特徴 等位接続詞や従位接続詞で直接結ばれている文は一つずつしかない。

A₁₂: No, I want to buy in Omicho market, but I can't eat all.

C₂₁: Miss B, you can't eat 'sashimi' because you think so.

その他, 等位接続詞が2番目の節と一緒に独立して1文を形成する。

C₁₆: I don't like fish. And I walk [about] the Omicho street ... I became (=felt) too bad.

A₁₈: Yes. I sometimes buy fish. But I can't cook.

上例で所謂sentence wordと称されているyesも独立して1文となっている。

又、1人の話し手の発言をこえた文が接続詞で結ばれている。

A₃₆: I like 'sashimi' very much.

B₂₅: Why

A₃₇: And I like 'sushi' too.

A₁₁: Surely in Tokyo store cucumber ... is two hundred yen: But in Omicho market [it] is very cheap.

B₈: But do you eat all the cucumbers?

2)修辞上の特徴 質問や答、陳述の前後に接続詞なしの文がきて、その文の補足説明や意見をのべる。

B₂₆: Oh, I've heard [of] Uozu Sea-Hall (=aquarium). Are there many fishes in the hall?

A₁₉: I (make a) cook 'Nabe'. Fishes is boiled, you see?

B₁₅: Why? It's very delicious.

3)新しい単語の模索 単語の訂正は行うが、知らない単語は相手に尋ねるか、あっさり日本語で云ってしまう。

A₅: For example, cucumber is about ... ten ... about two hundred yen.

C₆: How surprised (=surprising)! And my mother is ... Excuse me, Miss A, what [is] the English for 'okoru'?

C₁₁: What kind of fish?

A₂₀: Um for example, 'kawahagi' or 'tara'

相手が言い方が分らない時には聞かれなくても積極的に教える場合もある。

B₄: What ... of cucumber?

A₇: Oh, how many?

B_s: Uhun. How many?

A_s: About ten.

3. 以上の2のアプローチの中、どちらがよいかと聞かれるとどちらもと答えるより外はない。試行錯誤型はそれを重ねることにより正しい表現ができるようになり、堅実型も練習を続けることにより複雑な表現ができるようになる。唯どんな目的又は内容に適しているかとなると、前者は主として説明に、後者は物語（おしゃべり？）に適していると言えよう。

4.0. 最後に学習の各段階について 1)良かったと思うこと 2)困ったこと 3)将来の改良点について学生の意見を求めた。

1. よかった点

1)全般的な感想	男	女	計
a)楽しい、嬉しい、面白い	13	11	24
b)良かった、良い勉強になった	7	1	8
c)役にたつ	6	1	7
d)有意義であった	3		3
2)具体的に良かった点	(合計) 29	13	42
a)自分なりに話せるようになった	4	8	12
b)相手に分らせる為に最後まで努力した	1	3	4
c)会話のこつが憶えられた	3		3
易しい文が続けられた		3	3
あいずちがうてるようになった		3	3
d)文法が気にならなくなった	1	2	3
英語で考えられるようになった		1	1
e)意見の交換ができた	2	2	4
他人の英語と比較できた	1		1
	(合計) 12	22	34

2. 困った点

	男	女	計
a)質問がすぐできない	2		2
簡単な質問ができない	1	2	3
相手に分らせられない	1		1
ききかえせない		1	1
	(合計) 4	3	7
b)すぐに返事ができない	1		1
返事がつまる	2	3	5
あいずちがうてない		2	2
	(合計) 3	5	8
c)スピードにかける		1	1
d)文法の誤りが多い	2	3	5
文法が気になる		1	1
	(合計) 2	5	7

e) 会話が単調で内容にかける	3	3	
f) テープをとめる	2	5	7
話すことを書いてかかる		2	2
日本語を使う	3	1	4
テープを意識する	1		1
(合計)	9	8	17
3. 改良すべき点	男	女	計
a) 題をきめない自由会話	4	2	6
b) 班の編成を時々かえる	4	2	6
c) 転記の時間を多くする	15	10	25
(合計)	23	14	37

参 考 文 献

- 中川友吉「教養課程英語の総合学習」昭和53
 " 「会話の修正」昭和57
 " 「談話の構造と抑揚」昭和58

实例 1 Entertainment

1. 作文

My hobby is cycling. I have been cycling for three years. In that period I went here and there, for example, Kyoto and Nara, Omae-zaki, Hida-Takayama, Noto, Ise-Shima. My bicycle is Fuji Olympic Newest, which is very expensive and is the second bicycle for me. I bought it five months ago.

By the way the signification of cycling is self-assertion, self-confidence, self-content and self-satisfaction by oneself, for oneself and of oneself, differ from motor cycle and motor car, to go anywhere. Then that is beyond description.

My way in cycling, landener, which is to make a trip by running the roads for a couple of days. If the destination is far, if I have no time to go the destination, I can go there by breaking up my bicycle by buses or trains, and break up (=put together?) my bicycle there to enjoy cycling there. Of course on a trip I want to stop cycling, I can carry my bicycle in the same way. In this way I want to enjoy cycling wide and far, Kyushu, Hokkaido, and Shikoku and so on, that (is) cost time and money.

I want to go around Japan for three years which is afforded to me as university life.

2. Conversation.

A₁: If rainy days continue [and] if you go to ride, what do you do?

- B₁: I dislike the rain mm I dislike riding in the rain very much. So if it is rain {y}, I stop running ... I stop cycling at the point (=on the spot?) and I enjoy the land (=place?) for example, enjoy shopping; I enjoy shopping and talking with the people of the land.
- A₂: But when you have to ride the bicycle, {for} example, you have no money or some reason, in some ... for some reason, you must go to home, what do you do?
- B₂: mm I mm I must hitchhike ... I must hitchhike some day (=way?)
- A₃: Did you ride on bicycle in rain suit?
- B₃: It is inevitable to wear raincoat in the rain; I must do so.
- A₄: Thank you.
- B₄: But I don't like it.
- D₁: How long do you ride a bicycle in a day?
- B₅: I can ride bicycle one hundred and fifty kilometers or two thousand kilometers.
- D₂: Two thousand?
- B₆: I'm sorry, two hundred kilometers in a day.
- D₃: Do you ... do you ..., are{n't} you very tired?
- B₇: Oh certainly I ... I'm tired, but every day I am training, so I'm not ... I'm not tired very much.
- D₄: But you stop cycling when you are tired.
- B₈: I thought it (=so) sometimes but I enjoy cycling itself, so I must ride a bicycle to continue cycling.
- D₅: I see.
- C₁: You said you went, for example, Kyoto and Nara, Omae-zaki, Hida-Takayama, Noto, Ise-Shima. By the way, did you have touches (=contact?) with people(s) who live there?
- B₉: I touched the people of the land, because I must enquire (ask about?) the road or the destination and so on.
- C₂: The land you went, the people who lived, who live the land you went to ... you went to, are all kindly people?
- B₁₀: Yes, they are. I soon make a friend with them at the land.
- C₃: That is a nice, nice thing. I also do so.
- D₁: By the way, aren't you a cycling member?
- B₁₁: Oh, not I; no no, I don't belong the kind of cycling club a cycling ... cycling communication ... cycling commutation (?)
- D₂: Why, don't you ... why aren't you a member of the cycling club?
- B₁₂: Oh, because I like cycling alone ... alone.
- D₃: If (=Don't) you ride a bicycle with other people?
- B₁₃: I don't ... I don't ride bicycle—liberty ... liberty.
- D₄: Do you mind other peoples within a people?
- B₁₄: Yes, I do.
- D₅: I see.

实例2 Shopping

1. 作文

Now I'm lodging, so every day I go back and forth between my lodge and University. Speaking of my delight, shopping is best. When I want to buy something, I walk about many shops. I buy something when my hobby is [in] agreement with the cost. I seldom buy something impulsively. For impulsive shopping is always my great regret. The reason why I like shopping is that I'm glad to get satisfaction [from] things. Perhaps you don't buy your hated things. That holds (for) thing than I bought. Then I'm shocked very much.

The place in Kanazawa I like best is around Musashigatsuji. There you can see Sky Plaza, New Sky Plaza, Daiei, and Omicho market. There we can buy everything we want. Now I want to speak of (=tell about) Omicho market. It is said (=called) 'kitchen for Kanazawa'. There are vegetables, meat, flowers, bread, sweets, sushi, etc. Always there are fresh, good, and cheap [things]. Workers in this market are full of life. Before supper there is great activity. Buyers are [in] race to get goods and workers are also race to sell goods. Many sightseers visit there with small freezing boxes. They often buy fresh fish, such as 'ama-ebi'

2. 会話

B₁: At Omicho store everything is cheap, you say.

A₁: Yes.

B₂: Really?

A₂: Yes, mm for example, mm ... Miss C, what's the English for 'Kyuri'?

C₁: Um I'm sorry I don't know. Let's ...

A₃: Pickles?

C₂: No.

A₄: Cucumber?

C₃: Thank you, teacher.

A₅: For example, cucumber is about ... ten ... about two hundred yen.

B₃: One pack?

A₆: Uhun.

B₄: What ... of cucumber?

A₇: Oh, how many?

B₅: Uhun, How many?

A₈: About ten.

C₄: It's cheap.

B₆: I think so [too]

C₅: I was in Uozu at New Year's day. Three cucumbers are three hundred yen.

A₉, B₇: Uhun.

C₆: How surprised (=surprising)! And my mother is ... Excuse, me, Miss A, what [is] the

English for 'okoru'?

A₁₀: 'okoru'? Um angry ... get angry.

C₇: Thank(s). And my mother got very angry.

A₁₁: Uhun Surely in Tokyo store cucumber is ... with three ... is two hundred yen. But in Omicho market [it] is very cheap.

B₈: But do you eat all the cucumbers?

A₁₂: No. I want to buy in Omicho market, but I can't eat all.

B₉: How (=what) do you do?

A₁₃: Then I ...

B₁₀: You separate (=distribute?)

A₁₄: ...separate my friends.

B₁₁: Oh, I see. I want to be the member of it.

A₁₅: Yes. Let's go to the Omicho market.

B₁₂: Oh, yes.

C₈: Please [don't?] forget me.

B₁₃: Oh, Miss C, you had better take room near Miss A.

A₁₁: Zaimoku-cho.

C₉: I'll do so. Um Miss A.

A₁₇: Yes?

C₁₀: Do you buy fish?

A₁₈: Yes. I sometimes buy fish. But I can't cook fish.

B₁₄: How do you cook it?

A₁₉: I make a cook(ing) 'nabe'. Fish is boiled, you see.

C₁₁: What kind of fish?

A₂₀: Um for example, 'kawahagi' or 'tara'.

C₁₂: 'tara'?

A₂₁: Do you like 'tara'?

C₁₃: No, I don't.

B₁₅: Why? It's very delicious in 'tara-nabe'.

C₁₄: Because [in] some seasons 'tara' have (a) little things.

A₂₂: Things?

B₁₆: Ah, 'tamago'?

C₁₅: No, another fish.

B₁₇: Ah, I have seen it.

A₂₃: mhm?

B₁₈: Yes, 'marunomi'. Yes, yes.

A₂₄: Yes?

B₁₉: I cut its body and a little fish in itself! Whole!

A₁₅: I see. I have not seen it. I'm surprised.

B₂₅: Do (=did) you buy it?

A₂₆: No.

B₂₁: Ah, cutting fish! I see.

A₂₇: In Omicho market workers cut fish.

C₁₆: I don't like fish very much. And I walk (about) the Omicho street (and see) sold fish.
I became (felt?) too bad.

A₂₂: And do you like 'sushi'?

B₂₂: Why? On the rice ... fish.

C₁₇: But I like 'sushi'. Especially, 'amaebi'. It's delicious.

B₂₃: 'Amaebi' is not the same as any other fishes. I don't like fish-'sushi'. I don't like 'sashimi'.

A₂₄: Miss C, do you like 'sashimi'?

C₁₈: Yes.

B₂₄: Why?

C₁₉: Miss B, what is the English for 'niteiru'?

A₃₀: Boil. Boil.

B₁₉: Boiled fish.

C₂₀: 'niru'?

A₃₁: Ah, like.

C₂₀: Thank you. Miss B, you are like foreigner.

A₃₂: Um you don't like 'sashimi'.

B₂₀: Yes.

A₃₃: So, foreigner!

B₂₁: But 'sashimi' is fresh.

A₃₄: Yes, of course. Yes.

B₂₂: And when I eat it, in my mouth fresh meat is 'gucha-gucha'. I think it...

A₃₅: Feel not ...

B₂₃: I feel bad.

C₂₁: Miss B, you can't eat 'sashimi' because you think so. And you (must make) effort to don't (=not to) think so.

B₂₄: But I can eat 'sashimi'. But I don't like it.

C₂₂: mhm.

A₃₆: I like 'sashimi' very much.

B₂₅: Why?

A₃₇: I like 'sushi' very much.

C₂₂: Miss A.

A₃₇: Yes.

C₂₃: 'sashimi' in Uozu is very delicious.

A₃₈: I think so (too).

B₂₆: Uozu is near sea?

C₂₄: Yes.

B₂₆: Oh, I've heard [about] Uozu Sea-Hall (=aquarium). Are there many fishes in the hall?

C₂₆: Yes. It's a very good building.

B₂₇: The fishes are beautiful?

C₂₆: Yes. mm ... Please come to 'suizokukan'.

A₃₉: Yes, and your home!

C₂₇: I'll welcome you.

A₄₀: Thank you.